

このたびはテックニクス針圧計SH-50P1をお求めいただき、まことにありがとうございます。
 SH-50P1は、半導体応力素子(Semi-conductor Strain Gauge) による高精度電子式針圧計です。
 正しくご使用いただくために、この取扱説明書を最後までよくお読みいただきますようお願いいたします。

■針圧計(SH-50P1)の定格
 (特許出願中)

形 式：半導体応力素子による電子式針圧計、ゼロ点調整、ゲイン調整機構内蔵

電 源：DC 3V 酸化銀電池(JIS G-13型) 2個

針 圧 測 定 範 囲：0.5~3g

使 用 素 子：半導体応力素子 2個
 トランジスタ 2個
 LED 1個

寸 法：幅14.7×奥行5.2×高さ2.4cm

重 量：125g

■針圧計(SH-50P1)の特長

1. 半導体応力素子(Semi-conductor Strain Gauge)による高感度設計。応力の変化で電気抵抗が変化するピエゾ抵抗効果を利用した高感度設計、しかも2個の半導体応力素子により温度補償を行ない、信頼性を高めるとともに感度の向上を図っています。
2. 大形メータによる針圧値直読式の使い易い設計。
3. 電源スイッチの「on」「off」が一目でわかるLEDランプつき。

1551-2666(90) 器電 2松下社中口松原町天(075上)地在所
 陪業事オイレテス 社合式料業器電上公

SFPDSS0005
 F0179D0

別)ご相談窓口(照参)は、

いっこにスゴバーカータムを中問保証書

3. 保証期間経過後、修理を依頼されるとき
 にお求めの販売店に、まずご相談ください。
 修理の要請が認められる場合は、
 必ず保証書に記載の住所に
 修理料がかかります。

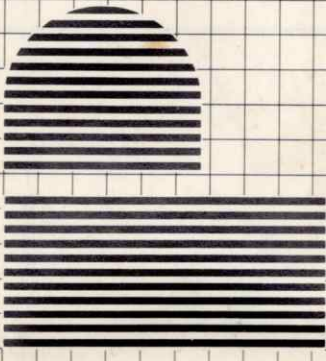
「電池の入れ方」の項参照
 電池の寿命は、連続使用で約10時間です。
 (ナニョナルの酸化銀電池G13を20°Cで使用した場合)。

2. 保証期間は1年間です。

保証期間は1年間です。

松下電器産業株式会社

Technics SH-50P1
 ELECTRONIC STYLUS PRESSURE-GAUGE
 Accurate stylus pressure adjustment using highly sensitive semiconductor strain-gauge elements
 • Sensitive meter for accurate reading and stylus pressure setting
 • Calibration adjustment device and LED lamp



取扱説明書

4. 電池取扱い時のご注意

電池は、使い方を誤ると電池の液もれで製品が腐食したり、電池が破裂する等の恐れがあります。

1. 電池が消耗したときは、全部新しいものと取替え、使用した電池と混ぜて使わないでください。
2. 違う種類の電池は、混用もしくは使用しないでください。

(例えば、同一サイズで互換性があるようにみえますが水銀電池(JIS H-C型)と酸化銀電池(JIS G-13型)は電圧が異なる)

また、ブランドの違った電池を混用しないでください。不経済だけでなく十分な特性を発揮しません。

3. 本機を使用後は、必ず電源スイッチを「off」にしてください。また、長時間使用しないときは、電池をケースから取出して保管してください。
4. 消耗した電池は、すぐに取出し、処分してください。

5. 電池は、充電、ショート、分解、加熱、火の中へ投入するなどしないでください。

6. 電池を取替える場合、針圧計の端子および電池の端子面に汚れがなく、形状にも

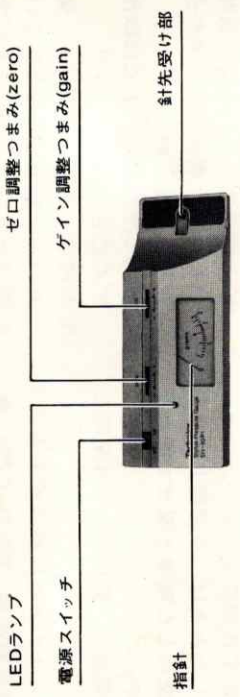
5. 電池の寿命

電池が消耗しますと、電源スイッチを「on」にし、ゼロ調整後、ゲイン調整ウエイトをのせゲイン調整つまみを「+」側にまわしても指針は「▼」まで振れませぬ。この場合でもLEDランプは点灯していることがありますが、測定はできませんので新しい電池と交換してください。

⊕、⊖を確認して正しく入れてください。

異常のないことを確認して、装てんして

1. 各部の名称



2. 部品の構成

- 針圧計.....1 ゲイン調整ウェイト... 1
- 針先受け部保護カバー ...1 電池(G13)..... 2

3. 針圧計(SH-50P1)の使い方

〔使用電源について〕
 本機は、酸化銀電池JIS G-13型2個で駆動します。ナシヨナル酸化銀電池G13を2個付属していますから、「電池取扱時のご注意」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〔電池の入れ方〕
 1. 電池収納部のふたを「OPEN」の方向に押します。(図1-①)
 2. 酸化銀電池2個を⊕、⊖を確実に正しく入れます。その後、ふたをしてください。(図1-②)

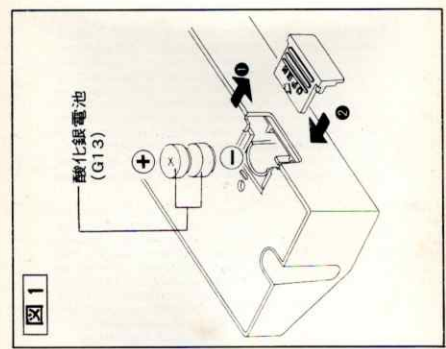


図1

〔針圧計の調整〕

針圧計は、精度よく測定いただくために以下の手順でご利用毎に確認し、調整してください。

1. 電源スイッチを「on」にします。LEDランプが点灯します。
2. ゼロ調整(zero)つまみを「+」か「-」方向にまわして指針を「0」に合わせます。(図2)

ご注意
 万一ゼロ調整(zero)つまみをまわしても指針が「0」にならない場合は、ゼロ調整(zero)つまみとゲイン調整(gain)つまみを「+」側に最後までまわし、針圧計底部のポリウム(図2)をドライババーで時計方向か反時計方向にまわして指針が「2.5~3」の間に入るように調整します。

その後、2項に従ってゼロ調整をしてください。

3. 付属のゲイン調整ウェイトの凹部を針先受け部の凸部に正しくのせ、ゲイン調整(gain)つまみを「+」か「-」方向にまわして、指針を「▼」に合わせます。(図3)

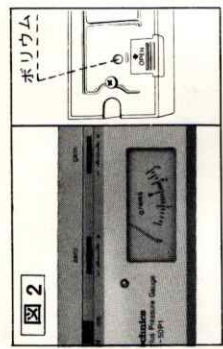


図2

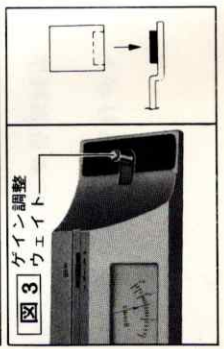


図3

ご注意

- 針圧計は、直接レコード盤の上に置いて使用しないでください。
- 針圧計を操作する場合、電源スイッチを「on」にし、しばらく(約10秒)してからご使用ください。また、指針が「0」に復帰するまで、数秒程かかりますが何れも温度補償による特殊構造のためで性能上支障はありません。
- 操作順序は必ずゼロ(O)調整をした後にゲイン調整をしてください。
- 順序を逆にしないでください。
- 使用後は、電池の消耗を防ぐため、必ず電源スイッチを「off」にしてください。
- 電源スイッチを切り忘れますと、約10時間で電池が消耗し、使用できなくなります。

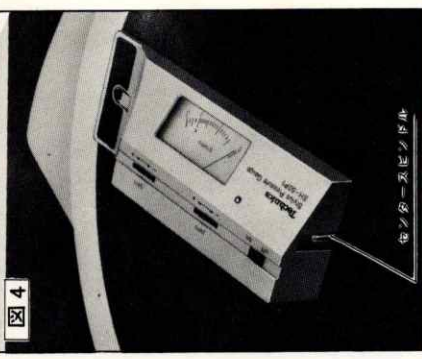


図4

〔針圧値の設定〕

針圧計は、ターンテーブル上で安定して使用できるように、針圧計の側面に切り込みを設けています。センタースターピンドルにはめ、針圧計を固定します。(図4)

ご注意

- 使用プレーヤのセンタースターピンドルが長い場合や、針先以外の部分が針圧計に触れる場合は、センタースターピンドルから少しずらした位置でご使用ください。
- また、ターンテーブルが動かないように固定しておきますと、調整がよりスムーズに行なえます。
- 1. ウェイトロックスねじを反時計方向にまわしてゆるめます。(図5)
- 2. アームクランプバーを解除し、アームユニットをフリーにして、一度針先を針圧計の針先受け部中央凹みに正しくのせ、針圧値を直読します。(図5,6)
- 3. その後、針圧調整リングを時計方向(針圧が軽くなる)か反時計方向(針圧が重くなる)にまわして、適正針圧値になるように調整します。(図5参照)
- 4. 針圧調整後、ウェイトロックスねじで固定します。



図5

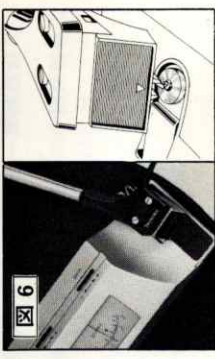


図6

ご注意

- 針先は、必ず針先受け部中央凹みに正しくのせてください。少しでもずれてしまいますと正確な測定ができません。
- 針圧調整リングをまわすときは、必ず針先を針圧計から離して行なってください。(図5参照)
- また、操作時に針先をいためないように十分注意してください。